

ことばだより

Vol.2

2021（令和3）年7月

連載

子どもを育てる評価

筑波大学附属小学校教諭
あおきのぶお
青木伸生



1. 子どもの「なるほど」を評価に生かす

2年生の説明文『すみれとあり』の学習をしました。すみれは、種を遠くに飛ばして仲間を増やしたいと考えています。そこで、自分の種にありの好物をつけて、ありに運んでもらおうという作戦を立てました。すみれの種は、ありに運んでもらったおかげで、コンクリートの割れ目や、高い石垣の隙間でも花を咲かせることができるのです。

このような内容の説明文を読んだ子どもは、自分の言葉で次のようにノートに書きました。

◆すみれはあたまがよくて、あまり思いつかないほうほうでかいけつする名人だと思いました。

◆ありは、たくはいびんだと思いました。

子どもは、読んで知ったことを素直に言葉にします。これも文章を読んだ子どもの評価です。

更に、「てびき」に基づいて、次のことを考えました。

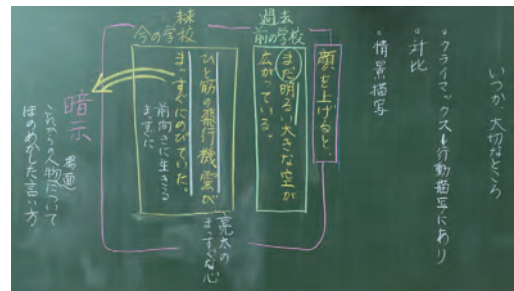
■ふかめよう

なぜ、題名が「すみれとあり」になっているのでしょうか。

私が補助発問として『『ありとすみれ』ではだめなのかな?』と尋ねました。子ども達は、すぐに「だめだめ」と答えました。「いろいろな所に花を咲かせたいすみれの、お手伝いをしているのがありだから」と言うのです。この文章の「主役」は、あくまでも「すみれ」であることを、子どもは実感していたのでした。このことが、「てびき」の最後にある「ふりかえろう」の「すみれとありがどのようにつながっているのか、読むことができましたか」という投げかけに対する子どもの振り返りということになるでしょう。

2. 読み深めを子どもが実感する

5年生で物語『いつか、大切なところ』を学習しました。中心人物亮太の心情の移り変わりを心情曲線に整理しながら読みました。「てびき」の「考えよう」と関連します。



上は、学習のまとめの板書です。特に物語の最後に書かれている2文について、意味を深く考えました。「てびき」には、次のように示されています。

■広げよう

亮太にとって、「いつか、大切なところ」という題名の言葉にはどのような意味がありますか。

子ども達は、1文めの「まだ明るい大きな空」が、亮太にとっての過去、つまり前の学校を暗示し、2文めの「一筋の飛行機雲」が、未来、つまり今の学校を暗示しているのではないかと考えました。更に「まっすぐにのびていた」という文末からは、前向きに生きていこうとする亮太の心とつながっていると読んだのです。この最後の2文と題名が子どもの中でつながり、読みが深まりました。

このような「てびき」による作品の読み深めの学習活動が、後の「ふり返ろう」につながります。子どもは、一連の「てびき」を通して、自分の学びの成果を実感していくのです。

1. はじめに

国語科の単元を構想する際、皆さんはどのようなことをキーワードに学習を組み立てますか。私は、次の三つのことを踏まえて単元を考えます。まずは「子どもの姿」そして、「言語活動」「教材」です。どの学年であっても、この三つを組み合わせながら単元を構想してきました。

国語科の学習では、さまざまな言語活動を通して、資質・能力を育成していますが、単元を構想する際の出発点は、やはり目の前の子どもの姿です。そして、単元の学習を終えたあとの子どもの姿が、学習の目標となります。目標を達成するために、どのような言語活動を設定し、どのような教材を活用するかということが単元を構成するうえでの重要な鍵であると考えます。

子どもたちの姿を見据え、言語活動と教材を適切に選択・活用することが、目標達成に向けた一歩になるのです。

2. 『世界遺産 白神山地からの提言』 の教材価値

『世界遺産 白神山地からの提言』は5年生の説明的な文章を読み、意見文を書く教材です。5年生という発達段階では、どのような能力が必要となるのでしょうか。

5年生は、高学年として学校の中心となる学年です。そのため、自分のことだけでなく周りのことも考え、行動していくことが求められてきます。このような時期に、課題意識をもって物事をさまざまな視点で捉え、相手意識をもって表現する能力を育成することは必要なことです。

『世界遺産 白神山地からの提言』は、多様な情報が盛りこまれた教材文です。複数の情報を読むことを通して、自然と人間との共存のあり方を考えることができる教材です。

この教材の大きな特徴は、掲載されている七つの資料

それぞれが異なる様式であるということ、そして、子どもたちの考えを揺さぶる内容が書かれているということです。

「人の手を加えず、自然の推移に委ねる」か「人の手を加えながら自然を守る」のか、この課題解決に向けて子どもたちは考えをめぐらせます。その際、七つの資料が考えの根拠となっていきます。

資料は七つありますが、一つ一つその設定が違います。

- 資料1 文章と地図の情報を関連させて読む。
- 資料2 文書様式と内容を読む。
- 資料3 新聞記事を読む。
- 資料4 グラフと写真の情報を関連させて読む。
- 資料5 感想を読む。
- 資料6 インタビューを読む。
- 資料7 意見を読む。

課題にそって必要な情報を読むためには、資料それぞれの特徴を捉えて読むことが必要です。

資料に書かれている内容は、自然を守るあり方について両方の立場のよさを示しています。そのため、子どもたちは、資料を読むごとにどちらの立場に立つべきか考えさせられるのです。

教材文には、一つのまとまった文章の中に、多くの情報が盛りこまれている場合があります。また、複数のまとまりに分かれて書かれていることもあります。しかしながら、『世界遺産 白神山地からの提言』は、そのどちらにもあてはまりません。複数の情報が、異なる様式で提示されているのです。このことは、資料を読むことで考えを揺さぶられるだけでなく、多様な資料の読み方も学ぶ機会となっているのです。

子どもたちの周りには、たくさんの情報がさまざまな形で示されています。そのため、必要に応じて、それらを活用しながら、考えたり表現したりすることが求められます。『世界遺産 白神山地からの提言』は、情報の活用方法、考えの表現方法を身につけさせていくことができる教材ではないでしょうか。

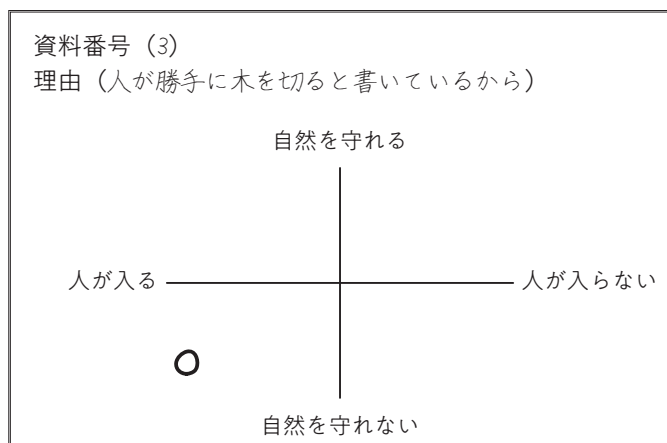
3. 授業実践に向けて

『世界遺産 白神山地からの提言』の教材特性を生かし、どのように組み立てて授業をしていくか、そこが単元作成の重要なポイントです。

大切にしたいことは、子どもたちに深く考えたうえで自分の考えを明確にもたせること、そして、考えをどのように表現させるかということです。そのため、次のような工夫が必要です。

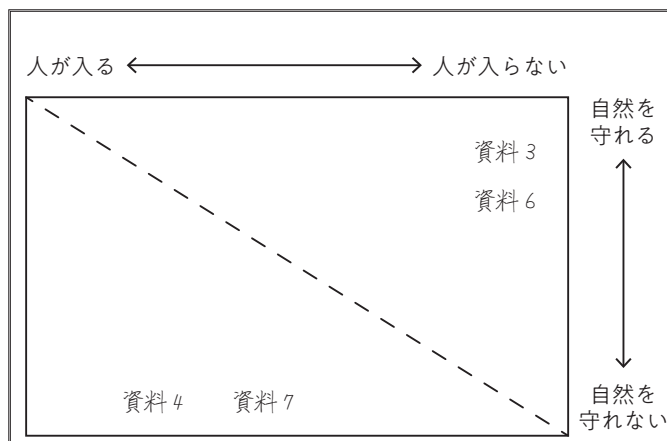
(1) 自然を守ることに對しての考えの視覚化

自然を守ることに對しての自分の立場を明確にすることが重要です。そのために、自分が今、どのような考えのもとにいるのかを視覚化させることが有効です。次のような資料を活用することも考えられます。ワークシート1は、資料ごとに自分の考えをまとめるために活用します。学習した資料からわかったことをもとに、自分の考えがどこにあるのかを○で記入します。



▲ワークシート1

最後に自分の考えをまとめる際にワークシート2を活用します。資料の番号を書き、これまでの考えを総括させます。



▲ワークシート2

(2) 資料の提示順番の工夫

資料は七つありますが、順番に提示するのではなく、子どもたちの思考を揺さぶるために順番を変えることも考えられます。

資料に書かれている内容を踏まえ順番を変えることで、子どもたちの課題意識を高めたり、考え方をええたり、確かなものにするすることができます。

特に、新聞記事やマタギの工藤さんのインタビューは子どもたちの心に響き、考えを深めさせるための資料となります。どこに、考えを深めさせる山場を位置づけどの資料を提示するかは、子どもたちの実態とあわせて計画したいものです。

(3) 意見文を書くことへの指導

意見文を書くためには、自分の考えをしっかりとすることが大切です。そのために、どのような立場があるのかを明確に理解することが大切だと思います。そして考えの根拠をもつことです。

この教材では、立場が三つあります。「人を入れて守る」「人を入れないで守る」そして、「どちらともいえない」この三つです。前者二つの立場のみで考えさせることもありますが、「どちらともいえない」という考え方もあります。考えた末に選べなかった理由を根拠とともに意見文にまとめることもあるのです。

自分の考えについて根拠をもって表現する。これからいろいろな場面が必要になる能力です。自信をもって表現できるようにするためには、根拠を確かにもてるようにすることだと思います。

4. 終わりに

これまで何度か、この教材で授業をしてきました。その中で、子どもの心を揺さぶる教材をいかに提示するか、そこで何を考えさせるのが教師の役目だと実感してきました。この教材で授業することは、子どもたちの資質・能力を高めるだけでなく、教師自身の教師力を向上することにつながるのではないかと感じています。

子どもたちの学びを高めるために、自分を磨く一歩にもなる授業。そんな授業になるよう心がけていきたいものです。教師としての学びを深めることのできる『世界遺産 白神山地からの提言』で、ぜひ授業に取り組んでみてください。きっと、新しい発見があることでしょう。

国語科の授業で使えるデジタル教科書の機能を、
具体例とともに紹介していきます！



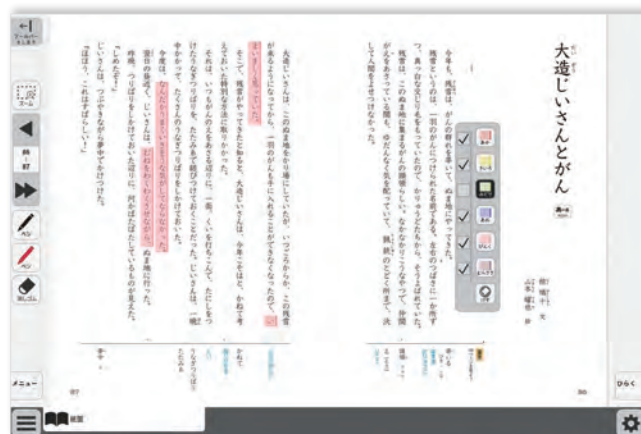
令和2年度版デジタル教科書
特設サイトはこちらから↑↑

「国語マーカー」とは？

「国語マーカー」は、線を引いたマーカーの色ごとに表示／非表示を選択することができる6色のマーカー。表示する色を選ぶことができるので、たくさんのマーカーの中から簡単に注目したい色にしぼることができる。

前回に続き、「国語マーカー」の活用方法を具体例とともに紹介します。

5年上巻の『大造じいさんとがん』では、子どもたちの意見ごとに色を分けてマーカーで線を引いて、表示／非表示の切り替えをすることで、マーカーの線を消しゴムで消すことなく、複数の子どもたちの意見を紙面上で視覚的に整理することができます。

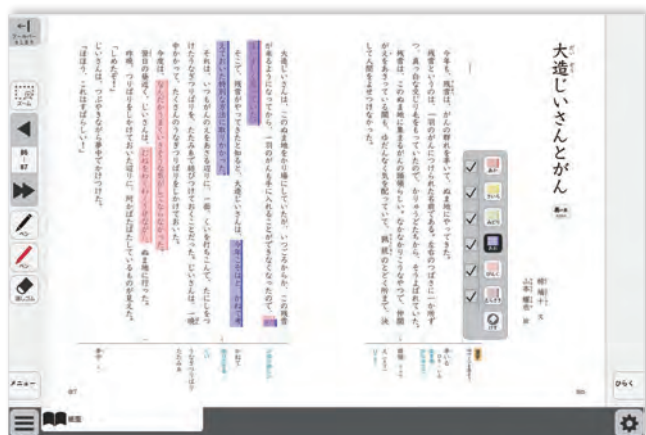


▲画面2

Bさんがマーカーで引いた大造じいさんの人物像

紙の教科書では何度も書いたり消したりすることに抵抗がありますが、デジタル教科書では書いても消しても紙面を汚す心配はありません。更に、「国語マーカー」で線を引いた箇所の表示／非表示を切り替えることで、注目したい色にしぼってマーカーの線を残すことができます。

「国語マーカー」の使い方はアイデア次第で無限大です。デジタル教科書の紙面上の文章を視覚的にわかりやすく整理して、子どもたちの学びがより活発で有意義なものになることを期待しています。



▲画面1

AさんとBさんがマーカーで引いた大造じいさんの人物像

本誌の デザイン

『小学国語通信 ことばだより』では、デザインに季節ごとの「かさねの色目」(平安時代以降の服飾文化に用いられた色彩)をイメージした配色を用いています。今回の号では、夏のかさねの色目の中から「撫子」を選びました。この色目の衣は、『源氏物語』や『今昔物語集』など、平安時代の文学にも多く見られます。ぜひ次号のデザインもご覧くださいますと幸いに存じます。

※「かさねの色目」の組み合わせには、諸説あります。

小学国語通信 ことばだより Vol.2 2021(令和3)年7月発行

教育出版株式会社 編集局 国語科

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFT ビル西館

TEL: 03-5579-6278 (代表)